



第27回「海をきれいにする運動」 応募作品審査発表



むつ湾漁業振興会と青森県漁業協同組合連合会の主催による第二十七回「海をきれいにする運動」は、むつ湾関係者のご協力により、相当の成果をあげて終了致しました。

この運動は、陸奥湾の公害絶滅・漁場環境を図り、資源保護自然環境保全に努め、陸奥湾の海をより美しいものにする事を目的に毎年七月二十日～十月三十一日まで展開されています。

そして、この運動の一環として、むつ湾内における小・中学生を対象に海をテーマとした作品募集をしたところ、図画二二二点、ポスター六四三点、作文十六点、標語二七〇点の合計で一、一五一点の多数の応募があり、審査員による厳正な審査が行われた結果、次のとおり優秀作品が決定されました。

また、この中で図画の優秀作品（小学校六点、中学校四点）については、「第二十二回全国海の子絵画展」へ出品されておりますので、結果がございました関係者へお知らせ致します。

本運動について、ご協力をいただきました関係者並びに学校に対して、厚くお礼を申し上げます。

尚、入賞された作品につきましては青森県水産ビル二階ギャラリーへ展示致しておりますので、来館の際は是非ご覧下さい。



応募作品審査風景

作文の部
特選

森と海と私達

三厩小学校 五年 工 藤 奈津美

どこまでも青い空。白い雲が、優しく浮かんでいる。海は、透きとおったコバルトグリーン。沖に行くにしたがって、青がだんだん深くなっていく。波打ち際は白く泡だち、寄せる波の音が耳に心地良い。沖に浮かぶ船は太陽をいっぱいを受けて、きらきら輝いている。

ここは津軽半島龍飛岬、私が生まれ育った漁業の村。そして観光の村。

毎年観光シーズン前に海岸の清掃のほうし活動が行なわれます。子ども会、婦人会、地区会等たくさんの方が協力して自分たちの海をきれいにしようと朝早くから集まります。大好きな海をきれいにしようとせっせとゴミをひろいます。拾っても拾っても心ない観光客の人達が年々増え続けるため海岸はいつこうにきれいになりません。また、ここで育った私達にも原因がないわけではないのです。家庭で使われた洗濯水や汚れこれらはすべて海に流されています。「このままでもいいのかな。」と私は毎年清掃活動するたびに考えます。

海は父や母達の働く場であり私達子ども

にとつても遊び場でお年寄達にはいこいの場であります。海を一番身近に感じられる私達こそが今、真剣に海を守ると言う事を考える時ではないかと思えます。

祖母はよく昔の事を話してくれます。

「昔だつきゃ、村中足のつき所もないくらいイカがとれだし、木箱に入りきらねいう平目が一日に何十枚もとれだ、ばっちゃんより大きいおひょうだなんてめずらしくながったんだよ。」

と昔を思い出して生き生き話してくれます。最近では魚はもちろん磯ものも減少しりやふのりも貴重品になりつつあります。こんな話を聞くと私は海が悪い変化を始めているんじゃないかと思うのです。

ある時、海と森の関係という話を本で読みました。その本には「海の生物は鉄分がないと生きていけない。その鉄分は山から流れてくる。鉄分を水に溶かすには広葉樹の落ち葉が作る腐葉土が必要だ。腐葉土が雨を吸収して鉄分を水に溶かす役割を果たす。だから山と海は恋人関係にあるのだ」と書いてありました。

ここ三厩村でも毎年植樹祭が行なわれています。私はその事を思い出しました。「そうか、海を守るためにも山を守る事が必要なんだ。だからみんなで山に木を植えるんだな。」と思いました。海と森の間には人間の生活があります。そしてそれは全部一つにつながっています。だから自然を豊かにするのもほろほすのも私達人間しだいだと思えます。

父はよく兄に

「これからの漁業はとるだけでなく育て増やす漁業が必要だ。」

と話しています。

危ない予測がいつばいある現代。今、私達に出来る事を一つ一つせいっぱいして、今のかんきょうをずっと守り、自然のすべてが快適である事を二十一世紀へつなげていと思えます。

学校の校庭の下にはコバルトグリーンが広がっています。

教室のまどから潮の香りのする風が心地良く吹きこみます。そして、今日も沖ではたくさん船が漁をしています。

かけがえのない私達の宝「海」ずっと輝いていてほしい。